

街路空間要素を考慮した生活道路における交通安全対策に関する研究

社会システム計画学研究室2010年度修士研究 吉城秀治

研究の背景

● 視覚的な効果を用いてドライバーの意識変容に訴える手法

路側帯のカラー化

中央線抹消

Shared Space



安全性向上に効果あり

視覚を通じた街路空間情報がドライバーの運転に大きな影響

これをコントロール！

= 無意識に安全な交通行動を促すまちづくりの可能性

研究の目的

街路空間整備を通じた交通安全対策手法の実現に資する知見を得る

- ・規制速度の速度抑制効果、規制速度違反されやすい道路の要因を検討
- ・街路空間が走行挙動へ及ぼす影響の検討
- ・これら影響を加味した交通安全対策手法の効果を検討
- ・視覚的な効果を考慮した街路空間整備を実際の街路に適用
- ・意識面と交通実態面からその効果を検証

分析対象とした社会実験の概要

出雲大社
向かう参詣道

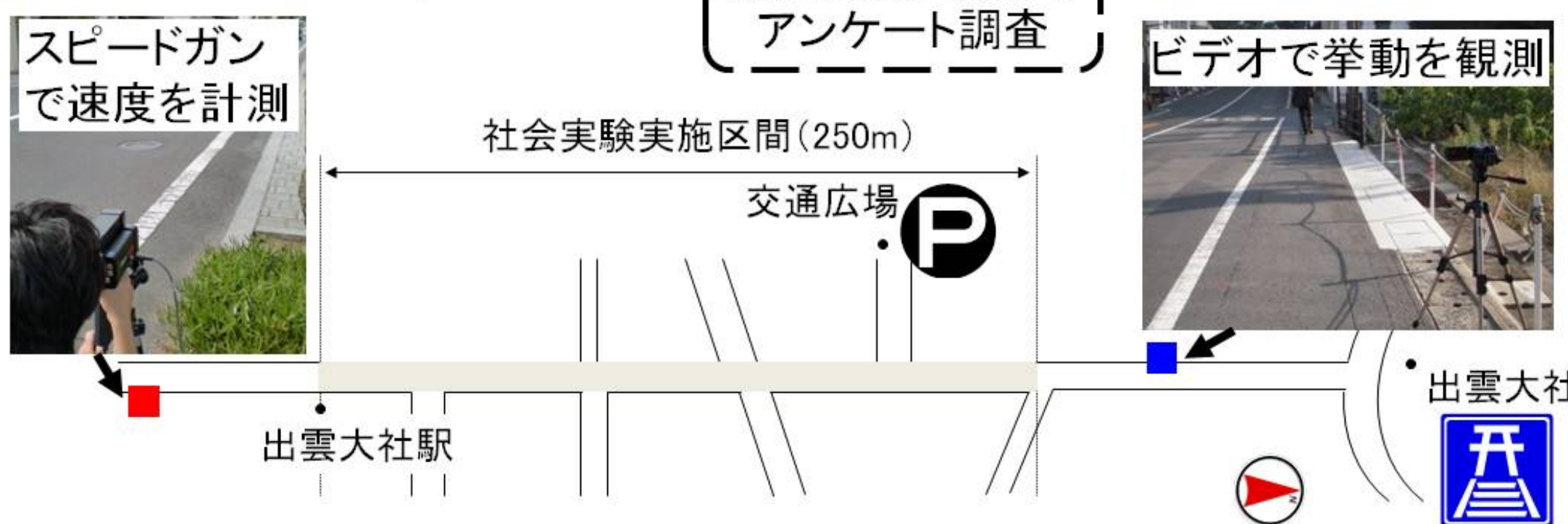
島根県出雲市
神門中筋線(神門通り)



中央線抹消
車道幅員7m→5m



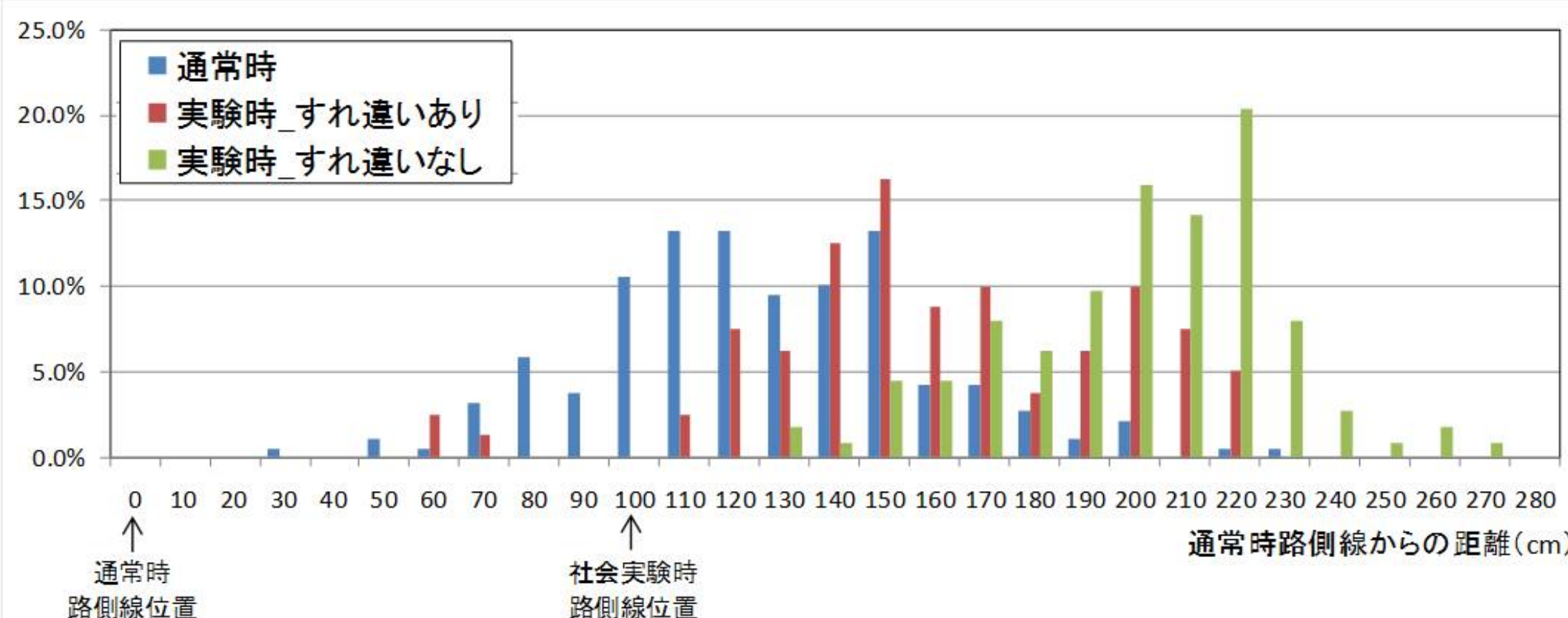
調査の概要



歩行者の動きや横断、自動車の走行速度・位置、意識の変化を調査

分析結果

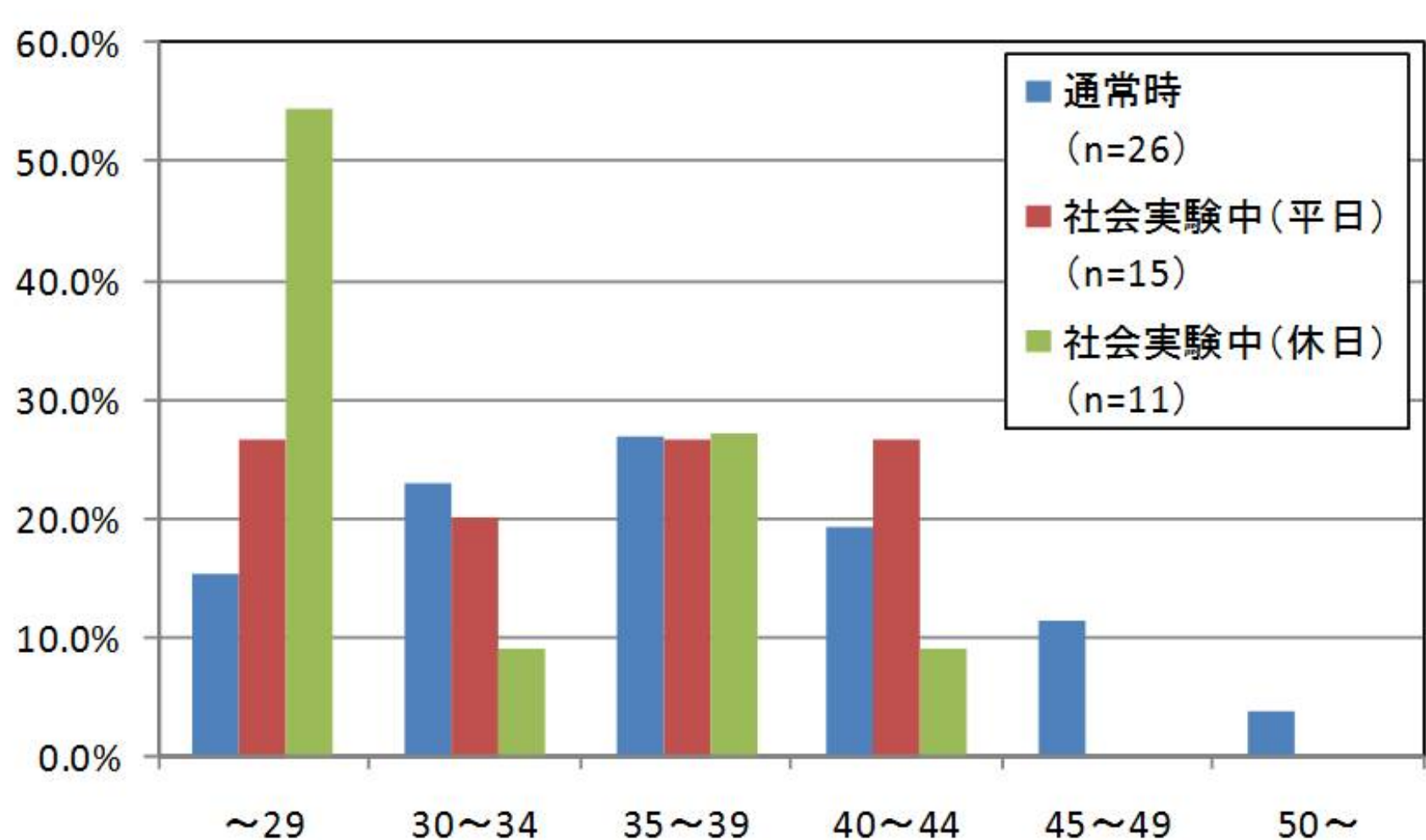
● 自動車走行位置の変化



・歩行者は通常時よりも広い空間を利用できている

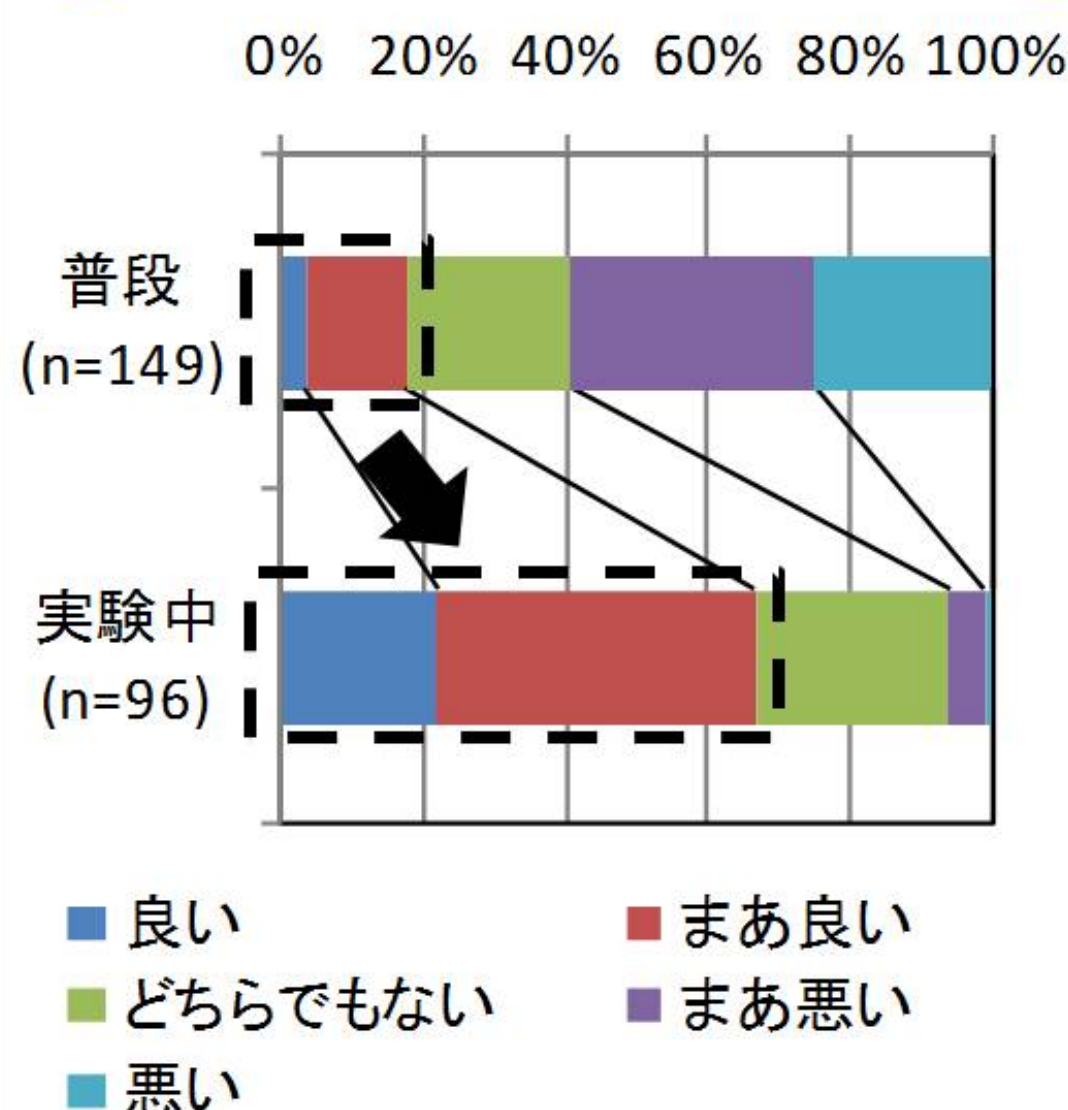
● 自動車走行速度の変化

	台数	平均速度	最高速度
通常時	26台	37km/h	52km/h
実験時(平日)	15台	34km/h	42km/h
実験時(休日)	11台	31km/h	41km/h



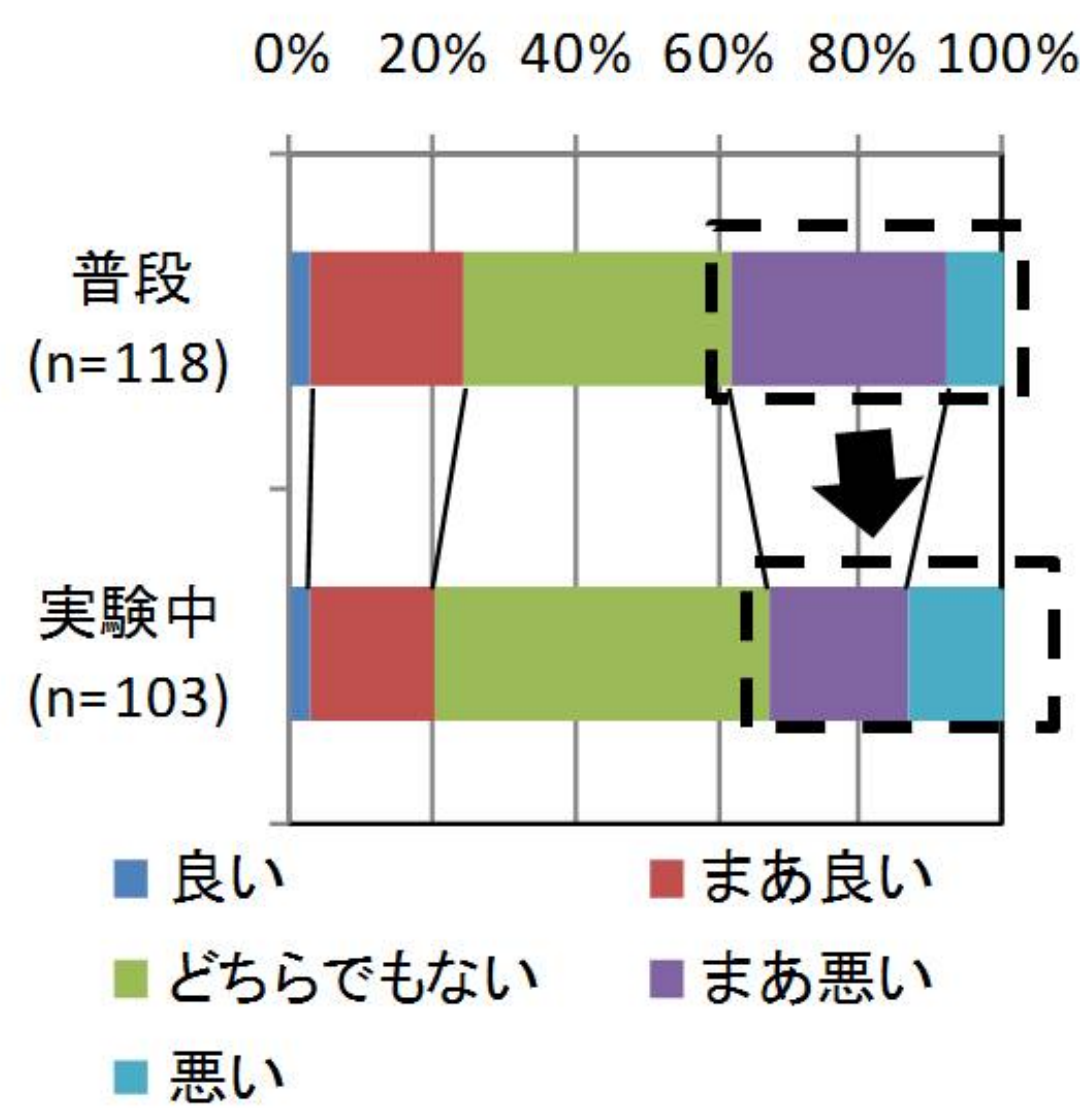
・平均速度、最高速度の大幅な抑制効果あり

● 歩行環境の評価



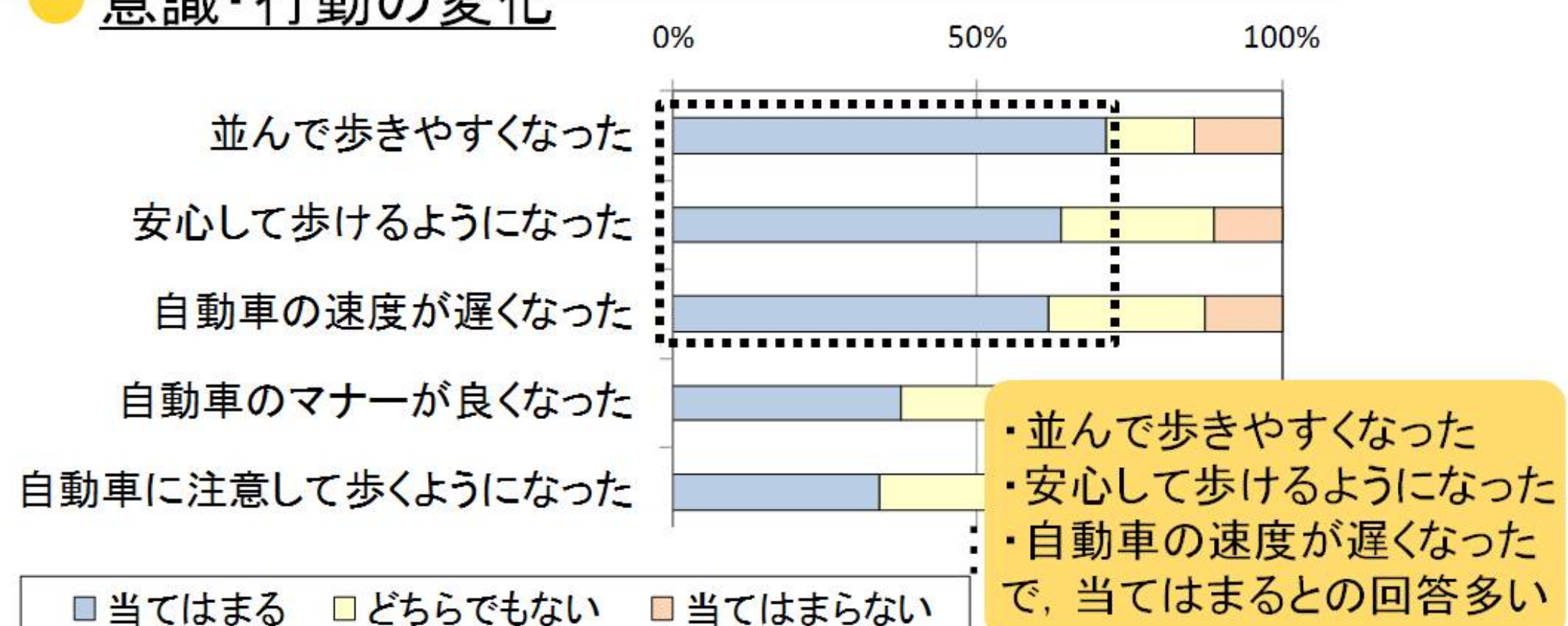
良い・まあ良いと回答した歩行者が大幅に増加

● 自動車走行環境の評価



車道が狭くなったものの、評価は普段とあまり変わらない

● 意識・行動の変化



結論

視覚的な街路空間整備を実際の街路に適用

自動車の走行位置が車道寄りに、また走行速度の抑制効果あり
走行環境の評価を下げることなく、歩行環境の改善効果